

CASBEE-建築(新築)2016年版

ダイハツ工業株式会社 京都工場 建設・補立工場(京都リファイン)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境						
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境						
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境						
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能			0.43			3.4
1 機能性						
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性						
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.1	0.50	-	-	3.1
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.50	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.4	0.30	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	耐震クラスをAとしている	4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			3.7	0.50				3.7
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30				
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.04	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30				
3.3 設備の更新性			3.4	0.40				
1	空調配管の更新性		3.0	0.20				
2	給排水管の更新性		3.0	0.20				
3	電気配線の更新性	ケーブルころがし配線としている	5.0	0.10				
4	通信配線の更新性	ケーブルころがし配線としている	5.0	0.10				
5	設備機器の更新性		3.0	0.20				
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20				
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57				2.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30				2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50				
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-				2.9
LR1 エネルギー			-	0.40				2.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				-				-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13				3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: 0.97	2.1	0.63				2.1
4 効率的運用			3.0	0.25				3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00				
4.1	モニタリング		3.0	0.50				
4.2	運用管理体制		3.0	0.50				
集合住宅の評価								
4.1	モニタリング							
4.2	運用管理体制							
LR2 資源・マテリアル			-	0.30				3.5
1 水資源保護			3.4	0.20				3.4
1.1	節水	グリーン購入法適合及び機器装置を備えた便器を採用している	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70				
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60				3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11				
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22				
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22				
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材・ボード・ビニル床タイル	5.0	0.22				
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-				
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアの採用	4.0	0.22				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20				3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30				
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70				
1	消火剤		-	-				
2	発泡剤(断熱材等)	吹付断熱材のODP=0かつGWP=1としている	5.0	0.50				
3	冷媒		3.0	0.50				
LR3 敷地外環境			-	0.30				2.9
1 地球温暖化への配慮		LCCO2:9%	3.0	0.33				3.0
2 地域環境への配慮			2.8	0.33				2.8
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を採用していない	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25				
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25				
3	交通負荷抑制		2.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40				
1	騒音		3.0	0.33				
2	振動		3.0	0.33				
3	悪臭		3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40				
1	風害の抑制		3.0	0.70				
2	砂塵の抑制							
3	日照障害の抑制		3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			3.7	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価する表の取組みの合計が3ポイント	4.0	0.70				
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30				